

北海道地域観光学会 第5回全国大会



「可能性は無限～北海道の観光資源」

日時

2018年7月21日(土) 9:00開場 9:30開始

会場

札幌国際大学2号館
〒004-8602 札幌市清田区清田4条1丁目4-1

参加費

無料(懇親カフェ参加の方は¥1,000)
※事前申し込み不要です

主催／北海道地域観光学会

共催／札幌国際大学

後援／観光まちづくり学会

お問い合わせ : do-chiiki-kanko@ad.siu.ac.jp (事務局/佐々木)

北海道
地域観
光学会

Hokkaido Chiiki Kanko Gakkaishi ISSN 2188-8973

北海道地域観光学会誌

The Journal of Hokkaido tourism research

年2回（4月・10月）発行、ウェブサイトにて公開

会員の投稿を募集しています。

第6巻1号（2019年4月）投稿締め切り:

◆ 査読付き論文は2018年10月末日

◆ その他の論文は2019年1月末日

詳しくは学会ウェブサイトにある投稿規程をご覧ください。

(<http://www.do-chiikikanko.online/contributionrule/>)

既刊

2014年 第1巻第1号(創刊号) 2014年3月31日

2015年 第2巻第1号 2015年3月31日

第2巻第2号 2015年9月30日

2016年 第3巻第1号 2016年4月30日

第3巻第2号 2016年10月31日

2017年 第4巻第1号 2017年4月30日

第4巻第2号 2017年10月31日

2018年 第5巻第1号 2018年4月30日



北海道地域観光学会にご入会ください

年会費 2,000円(入会金不要)

お問い合わせ: do-chiiki-kanko@ad.siu.ac.jp (事務局/佐々木)

北海道
地域観
光学会

WEBSITE : <http://www.do-chiikikanko.online/onlinejournal/>

■第5回全国大会開催にあたって

北海道地域観光学会 会長 大柳 幸彦

本学会の全国大会は今年で5回目を迎えます。今回のテーマは、「可能性は無限、北海道の観光資源」と銘打って、自然、風景、農水産品、温泉など魅力ある北海道の観光資源にスポットをあてました。過去4回の全国大会では、「北海道の着地型観光と産・学・官・市民連携」「地域における観光と医療」「北海道におけるインバウンド観光の未来と課題」「観光の役割と高齢・過疎地域」というテーマを掲げ、北海道の抱える問題を絞り込み、観光という切り口で学術的に深く掘り下げ議論してきましたが、今回は少し趣向を変え、北海道の観光資源を今一度再確認しようというものです。

北海道における観光産業のGDPは、今や金融・保険業、食品製造業、農業より規模が大きくなっています。今後も成長が期待される観光分野の需要増加を地域経済につなげていくためにも、その源となる観光資源を再確認することは必要なことだと考えています。

以上を踏まえ、今回は北海道の温泉資源にスポットをあてた特別講演、10名のセッション発表者ならびに北海道の観光の促進につながるシームレス交通をテーマとしたワークショップといった内容を盛り込み、皆様の今後の北海道観光発展のヒントとしたいと考えております。

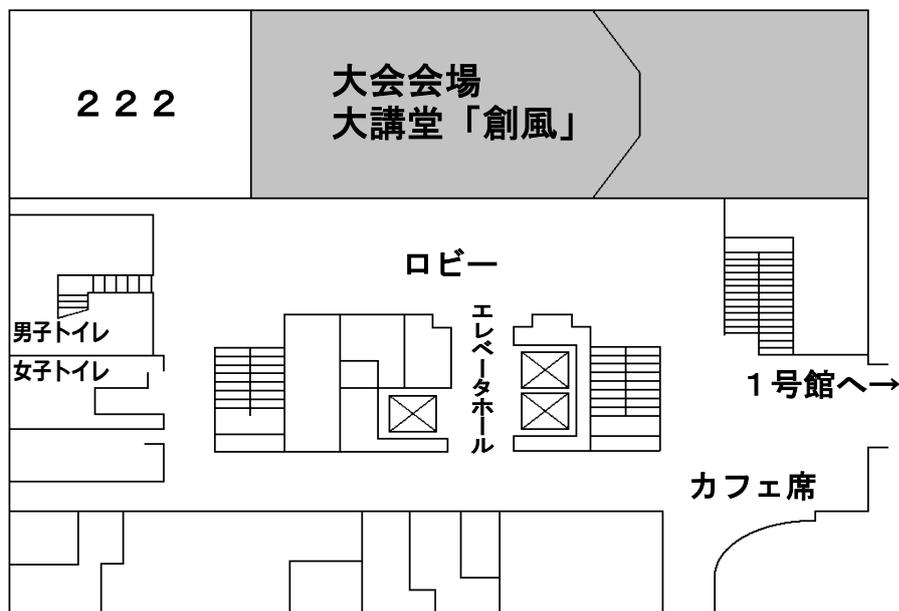
本学会は、北海道内各市町村と観光関連産業の発展に寄与し、北海道の地域観光振興の促進に資することを目的としており、本学会は、観光およびその周辺領域の研究に携わる研究者、国・地方自治体の関係者、ホテルや旅館などの観光ビジネス関係者そして観光で町おこしを推進する市民団体などの様々な分野の方にご入会いただき、学術論文の発表、活動レポートの発表、講演を行う機会、場所を提供しています。是非、本大会に最後までご参加いただき、学会の趣旨にご賛同いただければ幸甚に存じます

最後に、本大会開催にあたり、数々の作業に取り組んでくださった本学会実行委員会の皆様、会員の皆様、また会場のご提供をいただいた札幌国際大学の関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



■会場見取り図

札幌国際大学 2号館 2階



- ◆ 大変申し訳ございませんが、土曜日のため大学内売店ならびに食堂は休業しております。お昼は各自お近くのレストランまたはコンビニエンスストアをご利用ください。主な場所は18ページの地図をご参照ください。ご休憩はメイン会場の2階ロビーおよびカフェ席をご利用ください。
- ◆ 飲料の自動販売機は1階にあります。
- ◆ 大学敷地内（屋内・屋外）はすべて禁煙です。お煙草はご遠慮ください。また、校門そばなどで喫煙されると、近所より大学に苦情が寄せられますので、なにとぞご理解とご協力のほどお願い申し上げます。



■大会プログラム

会場：札幌国際大学 2号館2階 大講堂「創風」他

| 時間 | プログラム |
|-------------|---|
| 9:00～ | 開場 受付開始 |
| 9:30～9:35 | 開会挨拶 |
| 9:35～10:55 | 発表セッション（各20分）午前の部 |
| | 1. 蔣 蕾（北海商科大学大学院）「麗江における観光産業の変遷」 |
| | 2. ピパット・カーンジャンクンカムトーン（札幌国際大学大学院）「タイ人の求める北海道観光～タイ人へのアンケート調査の結果～」 |
| | 3. 中井 龍（北海商科大学研究生）「携程旅行網のM&Aおよびアライアンス戦略と財務業績との関係分析」 |
| 11:05～12:05 | 4. 泉澤 圭亮（北海商科大学大学院）「現代アートを活用した体験創出によるまちづくりに関する考察～アルフレッド・シュッツの生活世界を視点として～」 |
| | 5. 宋 柱昌（韓国全羅北道庁）「韓国における農産物直売所と地域活性化～全羅北道の龍進農協直売所を対象とした事例分析～」 |
| | 6. 布川 康行（イオンディライトセキュリティ）「可能性無限 北海道百年記念塔～記念塔から歴史文化観光の広告塔へ 観光資源として存続を～」 |
| 12:05～13:20 | お昼休み |
| 13:20～13:40 | 総会（2号館2階222室） |
| 13:40～13:45 | 休憩5分 |
| 13:45～15:05 | 発表セッション（各20分）午後の部 |
| | 8. 中鉢 令兒（北海商科大学商学部）「観光資源の真正性を担保する博物館の事例研究」 |
| | 9. 伊藤 寛幸（北海商科大学商学部）「札幌在住の学生に対する北海道観光に関するアンケート調査の結果報告」 |
| | 10. 加藤 由紀子（北海商科大学商学部）「観光資源としての松浦武四郎の足跡」 |
| 15:05～15:15 | 11. 菊地 達夫（北翔大学短期大学部）「旭川地域におけるスキー街づくりの特徴と可能性—都市型スノーリゾート構築への提案—」 |
| | 休憩10分 |
| 15:15～15:20 | 開催校挨拶 上野八郎（札幌国際大学理事長、北海道地域観光学会顧問） |
| 15:20～16:20 | 特別講演 「北海道の自然資源の活用—森と温泉の効用—」 大塚吉則（札幌国際大学） |
| 16:20～16:30 | 休憩10分 |
| 16:30～18:00 | ワークショップ「シームレス交通と観光」 ファシリテーター 岸 邦宏（北海道大学） 話題提供者 東本 靖史（日本データサービス株式会社） 熊谷美香子（特定非営利活動法人ポロクル） |
| 18:10～19:10 | 懇親カフェ（2号館2階 大講堂「創風」前ロビー） |

■特別講演

「北海道の自然資源の活用—森と温泉の効用—」

大塚 吉則 (札幌国際大学教授、北海道大学名誉教授)

温泉・森林などの自然資源は、観光はもちろんのこと、健康づくりの原資として活用できる北海道の財産である。平成 27 年度における宿泊施設のある温泉地数は全国で 3,084 か所、北海道は 245 か所で全国 1 位、源泉総数は全国で約 2 万 7,000 本のうち 2,110 本と第 4 位、総湧出量は全国第 2 位、延べ宿泊者数は全国でおよそ 1 億 3,200 万人、北海道は約 1,371 万人と全国 1 位になっており、まさに北海道は温泉天国である。近年、これらの資源を活用した健康づくり、ヘルスツーリズム等々が道内各地で行われるようになってきている。

本講演では温泉の定義から始め、代表的な泉質の特徴を紹介し、実際に行った健康教室の成果を紹介する。また森林資源の活用としての森林浴、北海道特産のトドマツ間伐材の有効利用として、その枝葉から得られた抽出水の足浴への応用結果についても紹介する。

大塚 吉則 おおつか よしのり：医師・医学博士

北海道大学医学部医学科卒業後、北海道大学医学部助手・講師・助教授を経て教育学部・教育学研究科健康スポーツ科学講座教授等歴任。現在は北海道大学名誉教授、札幌国際大学特任教授。

主な研究領域は健康科学、自然療法、温泉気候医学、保養地医学、東洋医学、代謝学。内容としては温泉、森林、海洋等、自然環境を利用した健康づくりに関する研究などを行っている。

日本内科学会認定医、日本糖尿病学会専門医・指導医、日本老年病学会専門医・指導医、日本医師会認定産業医、日本東洋医学会専門医・指導医、日本温泉気候物理医学会専門医。

著書：『温泉療法 —癒しへのアプローチ—』（南山堂医学教養新書、2001 年）、『そもそも、すべてが「体質」のせいなのか？ 自然治癒力を引き出し幸せになる方法』（メディカルトリビューン社、2012 年）、「新版 温泉療法 温泉と自然が生み出す健康づくり」（クルーズ社、2012 年）等著書、論文多数。



■ワークショップ

「シームレス交通と観光」

ファシリテーター・話題提供者 岸 邦宏（北海道大学大学院工学研究院准教授）

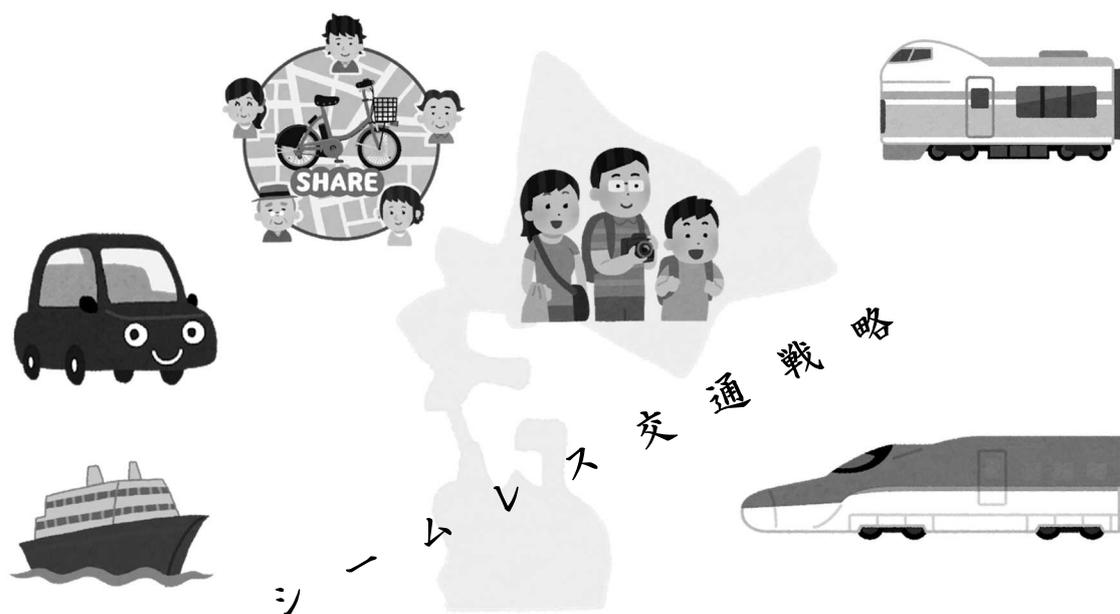
話題提供者 東本 靖史（日本データサービス株式会社 企画部次長）

熊谷美香子（特定非営利活動法人ポロクル 事務局長）

北海道は2018年3月に「北海道交通政策総合指針」を策定した。2030年度の北海道新幹線札幌開業を目標年度として、今後の北海道の交通ネットワークをどのようにつくっていくかをまとめており、北海道の最上位の交通計画に位置づけられる。この指針において重点戦略が掲げられており、その中の一つが「シームレス交通戦略」である。異なる交通手段の継ぎ目をなくす、つまりダイヤの調整、バリアフリー、情報提供などで乗り継ぎをストレスなくスムーズにすることにより、それぞれの交通手段が役割を果たし、それらをつなげることで全体の交通ネットワークをつくることを目指すものである。

観光においても、二次交通や情報提供の重要性が議論されてきているが、まさにこれはシームレス交通そのものである。

本ワークショップでは、観光を切り口として北海道のシームレス交通をどのようにつくっていくべきか、北海道版運輸連合の取り組み、観光列車や森蘭航路と二次交通のあり方、サイクルシェアリングの「ポロクル」を観光に活かすために他の交通手段とどう結びつけるか、という観点から議論したい。



■発表セッション プログラム

- ◆ 蔣 蕾（北海商科大学大学院）、伊藤 昭男（北海商科大学）
麗江における観光産業の変遷
- ◆ ピパット・カーンジャナクンカムトーン（札幌国際大学大学院）、梅村匡史（札幌国際大学）
「タイ人の求める北海道観光～タイ人へのアンケート調査の結果～」
- ◆ 中井 龍（北海商科大学研究生）
「携程旅行網のM&A およびアライアンス戦略と財務業績との関係分析」
- ◆ 泉澤 圭亮（北海商科大学大学院）、中鉢 令兒（北海商科大学）
「現代アートを活用した体験創出によるまちづくりに関する考察～アルフレッド・シュッツの生活世界を視点として～」
- ◆ 宋 柱昌（韓国全羅北道庁）、伊藤 寛幸（北海商科大学）、澤内 大輔（北海道大学）、山本 康貴（北海道大学大学）
「韓国における農産物直売所と地域活性化～全羅北道の龍進農協直売所を対象とした事例分析～」
- ◆ 布川 康行（イオンディライトセキュリティ）
「可能性無限 北海道百年記念等～記念塔から歴史文化観光の広告塔へ 観光資源として存続を～」
- ◆ 宮武 清志（株式会社リージャスト）
「北海道の地域資源を活かした土産品づくり」
- ◆ 中鉢 令兒（北海商科大学商学部）
「観光資源の真正性を担保する博物館の事例研究」
- ◆ 加藤 由紀子（北海商科大学商学部）
「観光資源としての松浦武四郎の足跡」
- ◆ 伊藤 寛幸（北海商科大学商学部）
「札幌在住の学生に対する北海道観光に関するアンケート調査の結果報告」
- ◆ 菊地 達夫（北翔大学短期大学部）
「旭川地域におけるスキー街づくりの特徴と可能性—都市型スノーリゾート構築への提案—」

麗江における観光産業の変遷

蒋 蕾*¹ 伊藤 昭男*²

観光産業の変遷を考察するのは、歴史的な観点から観光産業の発展史を考察することが非常に重要である。麗江の観光産業は90年代から始まり、現在まで20年余りの間に、ゼロからイチへ発展してきた。この20年余りの間に麗江における観光産業、観光政策、地域インフラ整備などさまざまなことが変化した。文献調査と現地調査を合わせ、1995年から現在まで麗江における観光産業の変遷と観光の変遷から見た問題点と課題を明らかにする。

キーワード：麗江 観光産業 変遷

【目的】 本文は、歴史的変遷の視点から、今後麗江の観光産業の持続的発展に関する示唆を得ることを目的とする。このため、まずButlerの観光地ライフサイクル・モデルを適用して麗江における観光産業の歴史的発展を段階区分する。つぎに、段階区分別の特徴を明らかにする。さらに、観光の変遷から見た問題点と課題を明らかにする。そのうえで、持続的な観光産業を発展させるインプリケーションを考察する。

【方法】 Butlerが提出された観光地ライフサイクル・モデルを理論的基礎として、文献調査と現地調査をあわせて、麗江における観光産業の変遷を考察する。

【結果と考察】 観光産業を発展させるためには、観光産業、飲食業、交通業というさまざまな産業を個別の振興政策として実施するのではなく、全体で相乗効果を発揮するための地域の全体最適化を図る政策が求められている。

【参考文献】

Butler RW. Concept of carrying capacity: dead or merely buried[J]. *Progress in Tourism and Hospitality Research*, 1996, 2(3-4):283-289.

Butler RW. *The Tourism area life cycle: vol (2), conceptual and theoretical*[M]. Ceedon, England: Channel View Publications, 2006

佐藤郁夫『観光と北海道経済』北海道大学出版社、2008年、34頁

山村高淑・張天新・藤木庸介『世界遺産と地域振興——中国雲南省・麗江にくらす』世界思想社、2007年

山村高淑「中国の歴史的市街地における居住形態と観光商業化の実態に関する調査・分析」『日本建築学会技術報告集』2001年7月第13号、191—194頁

袁媛「世界遺産・中国麗江古城の居住環境の変容と持続可能性」

『麗江年鑑』雲南民族出版社、1997年—2015年各年版

楊国清『麗江文化旅游崛起解讀』雲南人民出版社、2015年、156—178頁

晏雄『麗江民族文化産業集群式發展研究』經濟科学出版社、76頁

呉其付「遺産地旅游房地產研究——以麗江古城為例」『城市問題』2007年第8期、33頁

*¹ 北海商科大学大学院商学研究科博士課程 *² 北海商科大学商学部教授

タイ人の求める北海道観光 ～ タイ人へのアンケート調査の結果 ～

ピパット・カーンジャンクンカムトーン*1 梅村 匡史*2

2012年に北海道を訪れたタイ人観光客は急激に増加した。それ以降も増加は毎年続いている。この増加と連動し、個人型観光客の割合も団体型観光客の割合を圧倒的に上回り続けている。一方、北海道の各地域の観光産業・観光関連産業の人々はまだ、そういう個人型タイ人観光客の希望に十分応えられていないと考える。

キーワード：観光、タイ人、北海道

【目的】 北海道を訪れるタイ人観光客の旅行形態としては、個人型観光客が圧倒的に増加している。個人型観光客は既に人気であるところではなく、知名度の低く、普通は誰も行かないが、すごく魅力的なところを求めている。本報告では、そのようなところを発見し、観光対象とするための参考として、タイ人観光客の満足度・ニーズ調査の結果から北海道観光に求めるものを明らかにする。

【方法】 アンケート調査は、グーグルサイトを使用して、タイ人を対象に実施した。FacebookなどのSNSのほか、タイにいる知り合いにメールを送り家族や友達に回答してもらった。調査での回答数は332名(男106名、女222名、その他4名)である。HokkaidoThailandFanclubやSugoishoという北海道に興味を持つタイ人が大勢フォローしているFacebookページにも載せて回答してもらった。

【結果と考察】 アンケートの結果から北海道のリピーターになっている観光客がまだ少ないこと。個人旅行が圧倒的に多いため、個人型観光客を対象とした観光情報の提供や英語・タイ語版は必須であること。地方への訪問の回答数が予想以上に多く、地方での可能性を秘めていること。タイ人の北海道のイメージは雪が一番だが、北海道でしたいことは雪あそびよりも、自然鑑賞の方が圧倒的に多く、雪で遊ぶことよりも、雪に覆われる自然の全体的な光景を見ることを好むこと。ゆとりのある街並み・人々との交流を求めること。北海道の一番不便な点は交通アクセスだということなどが分かった。これらのことから、道内の地方においても、地域の人々と交流する機会を設けることでタイ人観光客やリピーターを増やすことに繋がり、地方の活性化にもつながると考える。

【参考文献】 北海道経済部観光局(2015)「訪日外国人来道者数(実人数)の推移」
プーワナット スプープクン(2015)「北海道におけるタイ観光客の誘致と受入に関する基礎研究」
増田善之(2016)「『外国人を呼び込む』新たな日本語教育事業 ～写真文化首都「写真の町」東川町～」

*1札幌国際大学 観光学研究科 *2札幌国際大学

携程旅行網の M&A およびアライアンス戦略と財務業績との関係分析

中井 龍*

【要約】

本研究は中国オンライン旅行企業の携程旅行網（英語名 Ctrip）の M&A 及びアライアンス戦略と財務業績との関係性を解明することを目的とし、3 つの仮説を立てたうえで分析をおこなった。その結果、携程旅行網の M&A 及びアライアンス戦略が有機的に財務業績に反映され、企業規模拡大に貢献しているが、同時に近年急激に進めた携程旅行網の M&A 及びアライアンス戦略により、借入金などが大幅に増加し、財務面のリスクがあることもわかった。

【目的】

本研究の目的は、中国オンライン旅行企業の携程旅行網（英語名 Ctrip）の M&A 及びアライアンス戦略と財務業績との関係性を解明することである。

中国最大のオンライン旅行会社である携程旅行網は M&A・アライアンス戦略を経営戦略の軸に、国内外の市場シェアを拡大し、中国国内最大手のオンライン旅行企業に成長した。今後も企業規模および市場シェアを拡大し、業界全体にも大きな影響をもたらすことが予想されるが関連研究としては、携程旅行網のビジネスモデルや市場の現状分析に関する論文や記事はいくつかあるものの、財務分析から携程旅行網の経営戦略について研究したものは極めて少ない。また、携程旅行網は日本法人及び札幌支店を設立しており、今後、北海道観光と関わることが予想される。そのため、中国最大のオンライン旅行企業である「携程旅行網」を研究することは今後の北海道の旅行業界にとっても有意義だと考えた。

【方法】

研究の視点として3つの仮説をたて、携程旅行網が毎年 SEC（アメリカ証券取引委員会）へ提出している年次報告書の財務データ・各種情報を分析することを通して、携程旅行網の経営戦略を考察した。

【結果と考察】

携程旅行網の M&A 及びアライアンス戦略が有機的に財務業績に反映され、企業規模拡大に貢献していることが分かった。同時に近年急激に進めた携程旅行網の M&A 及びアライアンス戦略により、借入金などを大幅に増加し、財務面のリスクがあることもわかった。今後は明確な財務戦略を立て、財務状況を安定させながら、M&A ならびにアライアンスを行い、企業規模の拡大をする必要があると考える。

【参考文献】

「去哪儿網私有化倒計時」『中国経済情報』：2016 年 22 号。王宗宝他「大数据時代伝統 OTA 面臨的挑戰及應對策略」『現代商業』。李宏主『中国在線旅游研究報告 2015 』北京旅教文化傳媒有限公司 2015。他 20 文献

* 北海商科大学研究生

現代アートを活用した体験創出によるまちづくりに関する考察 ～ アルフレッド・シュッツの生活世界を視点として ～

泉澤 圭亮*¹ 中鉢 令兒*²

A. シュッツの「生活世界」の概念を用いて青森県十和田市を事例に現代アートを活用した地域振興について考察した。結果、現代アートの理解には体験が重要であると結論した。

キーワード：開かれた空間、現代アート、生活世界

【目的】 現代アートフェスティバル等のイベントを活用し、地域振興を図っている地域がある。そうした地域において現代アートがまちづくりに寄与できた背景について、明らかにする必要があると推察される。本稿は、その背景についてアルフレッド・シュッツの「生活世界」の概念を活用して考察し、北海道において現代アートによるまちづくりに寄与することを目的とした。

【方法】 生活世界の概念で、十和田市の現代アートを活用したまちづくりを考察した（図1）。

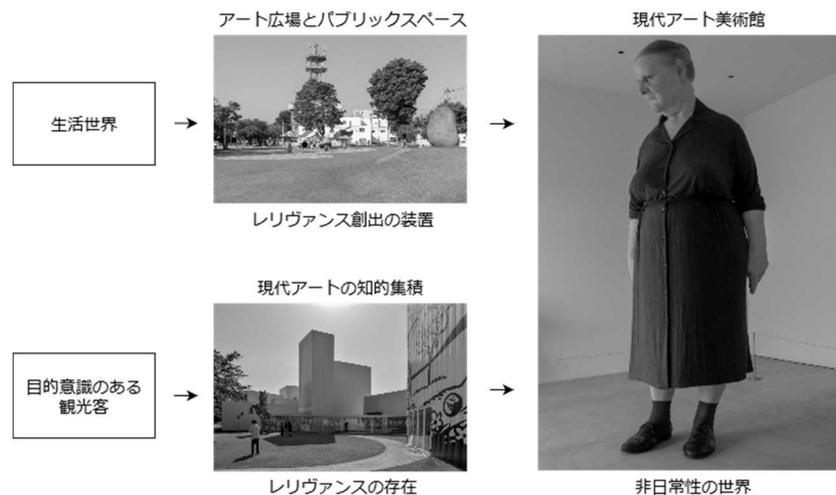


図1 研究方法の概念図

【結果と考察】 ①現代アートの理解(=レリヴァンス)には体験が必要である。まちづくりに現代アートを効果的に活用するためには体験の確保が必要であり、十和田市では「アート広場」にその機能がある。②地域内の無料空間に現代アートの雰囲気を経験できるような工夫が施されており、観光客や近隣住民のレリヴァンス創出装置となっている。

【参考文献】 A. シュッツ、T. ルックマン(那須壽訳)(2015)『生活世界の構造』、筑摩書房。
A. シュッツ(佐藤嘉一訳)(2006)『社会的世界の意味構成—理解社会学入門(改訳版)』、木鐸社。
長谷川裕子(2013)『キュレーション—知と感性を揺さぶる力』、集英社。

*¹ 北海商科大学大学院研究生 *² 北海商科大学商学部教授

韓国における農産物直売所と地域活性化

～ 全羅北道の龍進農協直売所を対象とした事例分析 ～

宋 柱昌*1 伊藤 寛幸*2 澤内 大輔*3 山本 康貴*3

韓国では、2012年に全羅北道の龍進農協が開設した農産物直売所（龍進農協直売所）が、大きな成果をあげ、地域活性化にも大きく寄与したことから、農産物直売所への関心が高まっている。本報告では、龍進農協直売所へのヒアリング調査などにより、直売所開設の経緯、事業成果などを明らかにした。

キーワード：農産物直売所、地域活性化、韓国

【背景と目的】韓国では、1980年代半ばから政府による農産物流通改革の一環として、農産物直売所の開設が推進されてきた。しかし当時の韓国では、地場農産物を消費することの意義や価値観が、現在のように広く共有されておらず、結果として農産物直売所が大きな注目を集めることはなかった。2012年に全羅北道の龍進農協が開設した農産物直売所（龍進農協直売所）は、売上や来客数を大きく増加させたことで韓国全国の注目を集めた。現在では視察などを目的に国内外から龍進農協直売所に多数の来訪者が見られる。そこで本報告では、韓国全羅北道の龍進農協直売所を事例として、龍進農協直売所開設の経緯、事業の成果を解明することを課題とした。

【方法】本報告では、韓国における農産物直売所の展開経緯に関する研究資料や統計資料の取りまとめにより、韓国における農産物直売所の動向を概観した。龍進農協直売所の開設経緯、事業の成果については、龍進農協直売所の資料や役員へのヒアリング等により、明らかにした。

【結果と考察】龍進農協が農産物直売所を開設したことによる第1の成果は、農協全体の売り上げや来客数が大幅に増加したことである。直売所の開設により、龍進農協の売上額は5倍近くも増加したほか、来客数も5割以上増加した。第2の成果は、高齢農家や小規模農家に安定した販売先と収入を提供したことである。これら2つの成果の要因としては、多品目販売と品切れ防止策の実施、農家による農産物直売所運営への積極的な関与などの取組みがあげられる。これら取組みを実現するうえで、出荷農家に対する教育・訓練の徹底や、明確な出荷ルールの作成など農産物直売所による周到な準備のほか、地元自治体による支援も大きな役割を担っていた。

龍進農協直売所の開設は、直売所を訪れる買い物客以外にも、多数の人を地元を引き寄せる面での地域活性化に貢献した。第1に、直売所開設から5年間で、買い物客とは別に、約9万人が視察などのために直売所を訪問した。第2に、直売所開設によって小規模農家でも安定的な収入が得られることなどが魅力になり、完州郡への帰農・帰村世帯数も大幅に増加した。

*1 韓国全羅北道庁 *2 北海商科大学 *3 北海道大学

可能性無限 北海道百年記念塔

～ 記念塔から歴史文化観光の広告塔へ 観光資源として存続を ～

布川 康行*

【はじめに】昭和45年完成の北海道百年記念塔（以降「記念塔」と表す）は、老朽化による危険性から一般利用者立入禁止となっている。復旧・存続の長期的経費負担の大きさから、現在の所、解体・撤去となる公算が高い¹。記念塔を眺めて服務している発表者は、記念塔は自らの維持費用をも補填し得る観光資源と考え、その可能性を考察し、記念塔の存続を訴えるものである。

【記念塔自体の可能性】①札幌市内の殆どの展望・眺望観光施設から確認できる。②記念塔自体も丘陵にある高層展望施設。③展望施設スタンプラリーの展開。④施設を修理・復旧ではなく、展望観光施設として再生を。⑤展望台部分を可能な限り上層へ、1階よりエレベーターで直通と改築し、有料とする。⑥階段に北海道博物館の展示内容を想定した北海道歴史絵巻を展開し、入場は有料とする。⑦所謂「インスタ映え」する。⑧江別市のカントリーサイン、校章や、施設名。

【アプローチの可能性】①カナルのある直線400mの遊歩道（高低・段有）。②更にその外側に通路を記念塔の外周を含めて設定すれば1km超となるので、セグウェイ等の体験。また、その模様をカメラで追跡撮影し、動画を販売。③冬季はミニスキーを履いてロープで牽引やカンジキウォーク。④雨天・積雪時季にも良い様に外観の見える覆道の設置。

【周辺芝生地】①市民の憩いの場としての公園機能の保持。②散歩利用者、レクリエーション利用者、観光利用者間の摩擦回避のため、囲いや区画分け（ボール遊び、車輪遊具等）。

【記念塔前案内所】コンビニエンスストアを誘致（北海道観光地なのでセーコマートが理想）。

【記念塔下休憩場】①向かいの「大地の手」の復旧と「インスタ映え」提案。②森林公園（開拓地でもあった世界的に稀有な都市近郊の平地林）、記念塔、大地の手（町村金吾氏・横路孝弘氏・宇梶静江氏等アイヌ民族の復権の運動家）についての解説展示。③佐藤忠良氏のレリーフを移設。

【立地と駐車場】①国道12号線沿。②森林公園は札幌市・江別市・北広島市にまたがる。③3市合同の道の駅を設立。④夜間はキャンピングカーの有料駐車場。⑤駐車場内周辺の芝生地に建築空間あり。⑥ロータリー中島と、ロータリーと駐車場の中間歩道・芝生部をすべて整地すれば、巨大な駐車スペースを確保可能。⑦観光施設に併設の道の駅。

【道の駅実現時の可能性】①札幌圏在住者が日常的に観光利用可能。②鹿肉消費等の道推進の事業の展開。③伝統的居留地とは異なる、現代アイヌ文化・芸術の発信。④北海道博物館、北海道開拓の村と共に歴史文化観光の充実。4施設で1日過ごせる。

* イオンディライトセキュリティ（株）¹冊子「百年記念施設の継承と活用に関する考え方」

北海道の地域資源を活かした土産品づくり

宮武 清志*

キーワード：観光資源、土産品

【目的】 観光行動は時間的・空間的に制限されたものであり、1回の北海道観光で全てを見ることはできない。そのため弊社では北海道の様々な観光資源を旅行の思い出という形で持ち帰ってもらい、再来訪のきっかけづくりを目的に2008年から「毎年カレンダー」シリーズを制作・販売している。本報告は本商品の意義や効果について検証し、北海道の地域資源を活かせるツールとして、コミュニティ・ビジネスにおける活用について検討してもらうことを目的としている。

【方法】 過去10年間の本商品の制作、販売過程および利用実態について、関係者や購入者のヒアリング等による検証を通して、本商品の制作・販売・利用面における特性や効果を明らかにする。

【結果と考察】 「毎年カレンダー」シリーズは2008年発行の「北海道花暦」以来、「大好き北海道」、「北海道の野鳥」、「北海道花物語」、「絵ごよみ北海道」の計5種類を制作・販売している。制作にあたっては少なくとも掲載点数366点の2～3倍の素材を集める必要がある。そのため素材収集にあたってはテーマに関連した同好会等の団体と連携することが多いが、活動の目的が商品開発という具体性のあるものであることから会員間の連携促進への効果が確認できた。またテーマに合った季節毎の地域資源を数多く収集する過程で地域資源の再発見に繋がった。

販売面では、第一に商品毎のテーマにより購入者層が異なるため、販売先を個々の購入者層毎に最適に配置することで効果的な販売が可能となった。第二に商品を直に手に取り確認できる販売方法として店舗、商品に同封のチラシが有効であった。第三に通年で何年でも販売できることから不良在庫となる懸念が無いこと。第四に10年間の販売を通して、テーマ選定、素材の質の確保、流通チャンネルが適正であれば、利益を上げられることが確認された。

利用面では通常のカレンダーとは異なり、何年でも利用できることから、コストパフォーマンスや環境面への配慮が評価されている。さらにガイドブックや写真集と異なり、毎日北海道の様々な風景や自然を見ることができ、再訪問や未訪問地訪問のきっかけとなることも確認された。

上述の通り、本商品は地域らしさを活かせると同時に、ある程度の利益も確実に確保できるツールであると言える。そのため今後地域における小規模なコミュニティ・ビジネスを志向する際に確実な収益事業のひとつとして活用できるものと期待している。

10年間の土産品づくりを通して確認できたことは、事業を続けていくためには利益を上げ、その利益を再投資していくことが必要であるというきわめて当たり前のことである。わが国においては2006年の観光立国推進基本法成立以来、地域における観光振興に対する様々な公的支援が実施されているが、支援の停止とともに数多くの観光関連事業が中止されるなど、公的支援に依存している観光関連事業の実態も垣間見られる。さらに公的支援が本来民間主導で進められるべき観光事業の持続可能性の芽をそいでいるのではと懸念されることから、今後は観光事業に対する公的支援や民官の役割分担のあり方について検討していく必要があるものと考えられる。

* 株式会社リージャスト

観光資源の真正性を担保する博物館の事例研究

中鉢 令兒*

本研究は、ソノブドヨ博物館を事例に、異文化圏の観光客が疑似イベント化を経ることなしに理解する方法を探る研究である。概念として、A. シュッツと D. マキヤーネルの理論を汎用した。

キーワード：ソノブドヨ博物館（インドネシア）、生活世界の構造、真正性

【目的】 インドネシアは、90%弱がイスラム教の国民が存在する国である。またジョグジャカルタには、世界遺産であるヒンドゥー教寺院遺跡群と3大聖地のひとつでもあるボロブドールが存在している。自国民の観光客にとっても、海外観光客にとっても異文化である遺跡は、史跡内にある博物館がそのいくつかを補っているが、潮流としての文化史的なものはジョグジャカルタにあるソノブドヨ博物館が担っている。A. シュッツの定義する、生活世界との差異を修正する工夫がなされ、生活世界と世界遺産の理解を繋ぐ役割を担っている。

【方法】 A. シュッツの概念によるフィールド調査（インドネシア：2017. 8. 10-8. 21）

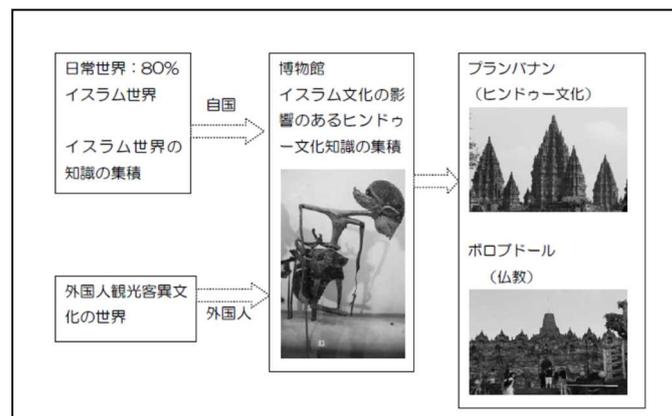


図1 研究の概念図

【結果と考察】

1. 自国民に対しては、プランパナンの理解は、お祭りや行事などで実施されるワヤン・クイッ（影絵）によるラーマーヤナで概ね理解されているとしている。ボロブドールは、オーディオビジュアル館や考古学博物館で、ヒンドゥー教との相互関係を解説し、理解を進めている。
2. 外国人に対しては、博物館によってインドネシア文化を解説し、ワヤン・クイッのイスラム文化による変化と、実演により生活構造に近づけ、伝統芸能による重層的理解を提供している。
3. 博物館の展示方法によって、疑似イベントを極力排除した真正性を担保した観光資源の扱いをしており、北海道観光資源（ex. アイヌ文化）の真正性を担保する点で学ぶことも多い。

【参考文献】 A. シュッツ（2003）、生活世界の構造；宮崎恒二（1993）、光に踊る英雄

* 北海商科大学 商学部

札幌在住の学生に対する北海道観光に関するアンケート調査の結果報告

伊藤 寛幸*

わが国では、2003年の「観光立国」宣言以降、全国的に本格的な観光立国への取り組みが図られている。北海道の観光地としての高いブランド力の評価を踏まえ、札幌在住の学生を対象とした北海道観光に関する動向調査を実施した。本報告では、アンケート調査結果をもとに、札幌在住の学生の北海道観光に関する動向の情報を提供する。

キーワード：北海道観光、アンケート調査、札幌在住学生

【目的】 わが国では、2003年の「観光立国」宣言以降、2006年に「観光立国推進基本法」が成立した。2008年には観光庁が設置され、全国的に本格的な観光立国への取り組みが図られている。諸施策のもと、北海道は観光地としての高いブランド力を有していることから、北海道を訪れる観光客数および宿泊者数は、全国的にみても常に上位にある。こうしたなか、北海道を中心とした観光に関する動向を把握するため、札幌在住の学生を対象とした北海道観光を中心とした旅行に関する動向調査を実施した。本報告では、アンケート調査結果をもとに、札幌在住の学生の北海道観光に関する動向の情報を提供する。北海道観光に対する地元住民の旅行動向などを把握することで、今後の北海道観光のあり方を検討する基礎資料としたい。

【方法】 調査対象：札幌在住の学生 調査方法：アンケート調査、調査時期：平成30年5月11日 設問数：全15問 有効回答数：22サンプル

【結果】

- ・過去5年以内の北海道旅行の経験者は15名（68%）。海外旅行の経験者は13名（59%）であった。
- ・北海道以外の旅行先としては、「関東」（19名）および「近畿」（17名）が圧倒的に多かった。
- ・北海道の観光地で、「行ったことがある観光地」は「旭川・旭山動物園」「登別温泉」「定山溪温泉」「洞爺湖温泉」「支笏湖」などであった。一方、「行ってみたい観光地」としては、「天人峡・旭岳温泉」「知床・ウトロ」「釧路・釧路湿原」「摩周湖・川湯温泉」「層雲峡温泉」などであった。
- ・今後の北海道の旅行スタイルとしては、「同じ宿泊地に滞在して、そこを拠点に色々な観光地を訪問する」が10名（45%）であったが、「1泊ごとに宿泊地を変えながら、北海道内各地を周遊する」という回答も9名（41%）を数え、滞在型観光が日帰り観光を大きく上回った。

【参考文献】 公益社団法人北海道観光振興機構（2016）『他都府県との比較分析調査事業 報告書』

* 北海商科大学商学部 准教授

観光資源としての松浦武四郎の足跡

加藤 由紀子*

2018年は北海道と命名されてから150年目の節目の年で、関連事業が多数計画されている。松浦武四郎は、1845年から約13年間に、当時まだ知られていなかった蝦夷や樺太を6回に渡り調査を行い、数々の紀行本や地図を出版した。道内では記念碑や銅像があるが、各市町村のホームページにはその記載が少ない。今後北海道観光において、松浦武四郎の足跡を生かすために数々の偉業を現地から発信したり、実際に観光客が見られる工夫が必要と考える。

キーワード：(松浦武四郎 蝦夷地調査 松坂市松浦武四郎記念館)

2018年は北海道と命名されてから150年目となる。北海道では、北海道150年事業として、記念セレモニーや道民や関係団体、民間企業等が実施する「北海道みらい事業」があり、「北海道」の名付け親となった松浦武四郎の関連事業が、53事業もある。

松浦武四郎は、1818（文化15）年、江戸時代に我が国初の実測日本地図を作った伊能忠敬が没した年に、現在の松坂市小野江町で誕生した。1845（弘化2）年、第1回蝦夷地探査から、1858（安政5）年 第6回蝦夷地調査まで、約13年間に当時まだ知られていなかった蝦夷地（北海道）や樺太を6回にわけて調査を行なっている。武四郎は成果である調査記録をもとに、紀行本や地図など151冊にもものぼる出版をした。また、蝦夷地に代わる名称を「北加伊道」と上申して採用されているが、それだけでなく、石狩国など11カ国、厚田郡など86郡名について命名も採用されている。さらに、アイヌ民族の姿をありのままに伝えようと、調査で出会ったアイヌの人々のことを見聞したままに記録し、「近世蝦夷人物誌」を出版している。

松浦武四郎は現在の北海道内の179市町村のほとんどに足跡を残しているが、それらを顕彰して、北海道内では56カ所に記念碑、さらに3つの銅像が建立されている。また、資料展示はほとんどされていないものの北海道内の郷土資料館には、北海道の命名者としての記述などが一部で見受けられる。しかし、各市町村のホームページには、一部を除いてそれらの情報は無く、観光協会のホームページは、顕彰碑などがあるところに記載がみられるものもあるが、数としては少ない。逆に個人のブログでは、松浦武四郎の足跡を訪ねた記録が数多く散見される。

三重県松坂市では、1994（平成6）年に開館した「松浦武四郎記念館」を中心に、講演会、三重県総合博物館での特別展、武四郎フォーラムなどが企画され、積極的に発信している。松坂市では、生誕200年となる2018年を、松浦武四郎を全国へと発信する元年と位置付けているが、その面でも、学芸員を配した松浦武四郎記念館の持つ意味は大きい。今後北海道観光において、松浦武四郎の足跡を生かすために、今以上にホームページでの発信強化や、北海道立文書館など常設で見られる展示物を、もっと観光客に親しんでもらえるように展示の拡大と周知が必要と考える。

* 北海商科大学商学部教授

旭川地域におけるスキー観光まちづくりの特色と可能性

—都市型スノーリゾート構築への提案—

菊地 達夫*

キーワード：旭川地域、インバウンド・ツーリズム、都市型スノーリゾート、大雪カムイミントラ DMO

1. 研究の背景・目的

本発表は、研究対象地域として、旭川地域における都市型スノーリゾート構想を取り上げ、現状のスキー場の実態を明らかにし、どのようなスキー観光地域づくりが望ましいか、提案しようとするものである。具体的には、旭川地域における都市型スノーリゾート構想の背景と取組の概要に触れる。続いて、圏域のスキー場における索道施設、コースなどを取り上げ、どのような特色を有するのか、浮き彫りとする。具体的には、現在の北海道におけるスキー場の分布と特色に触れ、旭川地域における都市型スノーリゾート構想の背景、取組の概要を取り上げる。続いて、圏域のスキー場の実態を明らかにし、最後に、スキー場自体とスキー場と他の観光的事象の組み合わせとして、いくつかの提案を行う。

2. 研究の結果（提案）

提案は、①スキー等のレベルに応じたスキー場の選択、②スキー場と他の観光的事象を組み合わせた内容、③宿泊施設（滞在地）の選択である。①の場合、初級者、中上級者、非圧雪希望者・雪景色見学者に分けた。また、スキー場内外における外国語案内ボランティアのあり方にも触れた。②の場合、旭山動物園（道内在来種観察）とスキー場での動物の足跡探し、旭川市内の博物館・科学館と層雲峡の景観観察である。③の場合、都市滞在型（旭川市内宿泊施設利用）と温泉地滞在型（大雪山黒岳・旭岳）である。

これらの提案内容は、すでに他の地域で見られる場合もある。他方、環境教育的な内容の解説のように、地域が異なることで、内容が相違することはあろう。こうした差異は、観光の魅力を高めることに役立つ。加え、旭川市の都市規模は、観光行動する上で空間的に都合がよい。一つは、都市（市街地）とスキー場、空港の距離の近接性である。また、スキー場の立地が、適度に分散している点も強みと判断できる。もう一つは、一定数の宿泊施設数と飲食店数が都心部に分布することである。その結果、外国人観光客の興味関心に応じて、ある程度、入り込みを分散・調整できる受け皿を有している。

優先すべき課題は、都市（都心部）とスキー場、スキー場間を結ぶ公共交通機関の充実である。レンタカーの利用は、増加しているものの、冬季を考えると不慣れな外国人は多い。

本発表の内容は、菊地達夫（2018）：「旭川地域におけるスキー観光まちづくりの特色と可能性—都市型スノーリゾート構築への提案—」北翔大学生涯スポーツ学部研究紀要第9号、pp. 201-210。を骨子したものであり、当日は、追調査で明らかになった部分も含めたい。

* 北翔大学短期大学部教授

■会場周辺情報

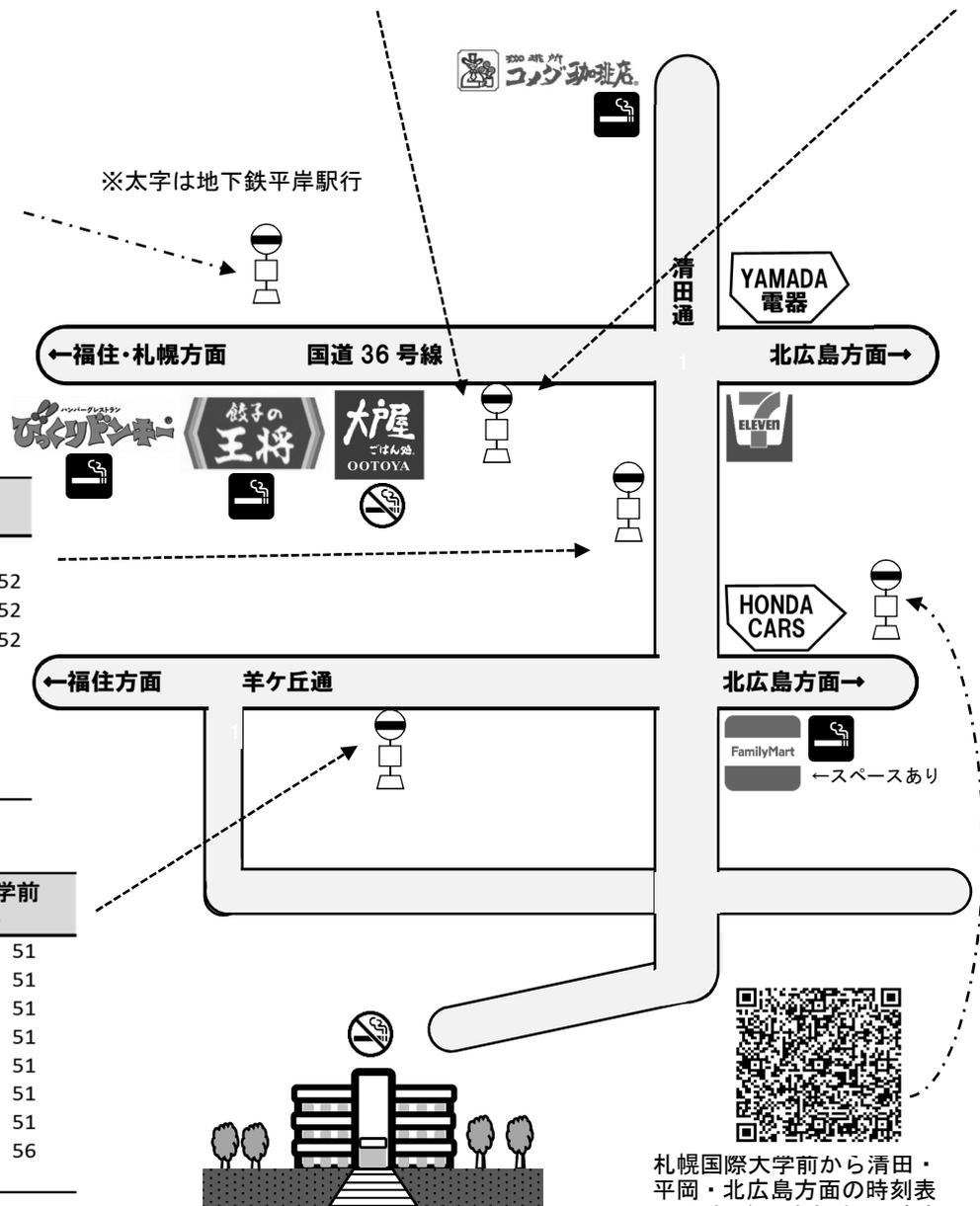
清田2条1丁目から清田・平岡・北広島方面の時刻表は中央バス時刻表でご確認ください。
(PDFが開きます)

| 清田2条1丁目 福住駅行 | | | | | | |
|-----------------|---|-----------|-----------|-----------|----|-------------|
| 12時 | 4 | 10 | 11 | 33 | 40 | 54 56 |
| 13時 | 4 | 11 | 33 | 44 | 45 | 50 |
| 14時 | 2 | 4 | 10 | 11 | 18 | 33 50 |
| 15時 | 0 | 4 | 11 | 21 | 23 | 33 50 |
| 16時 | 4 | 11 | 10 | 32 | 33 | 45 |
| 17時 | 4 | 5 | 8 | 11 | 18 | 21 24 33 45 |
| 18時 | 4 | 8 | 11 | 25 | 29 | 34 37 38 48 |
| 19時 | 8 | 11 | 14 | 17 | 39 | 53 |
| 20時 | 2 | 11 | 14 | 15 | 28 | 39 42 |

| 清田2条1丁目 福住駅経由 札幌駅前 | | | | | |
|-----------------------|----|----|----|----|-------|
| 12時 | 12 | 21 | 30 | 40 | 55 |
| 13時 | 12 | 21 | 27 | 40 | |
| 14時 | 0 | 12 | 30 | 40 | 51 |
| 15時 | 3 | 12 | 21 | 30 | 40 43 |
| 16時 | 0 | 12 | 30 | 40 | 51 |
| 17時 | 0 | 12 | 21 | 30 | 40 |
| 18時 | 10 | 18 | 40 | | |
| 19時 | 5 | 26 | 30 | | |
| 20時 | 6 | 51 | 57 | | |



※太字は地下鉄平岸駅行



| 札幌国際大学前 南郷18丁目行 | | | |
|--------------------|----|----|-------|
| 12時 | 22 | 36 | 52 |
| 13時 | 6 | 22 | 36 52 |
| 14時 | 6 | 22 | 36 52 |
| 15時 | 6 | 22 | 36 52 |
| 16時 | 6 | 36 | 52 |
| 17時 | 6 | 36 | 52 |
| 18時 | 6 | 36 | 52 |
| 19時 | 6 | 48 | 57 |
| 20時 | | | |

| 札幌国際大学前 福住駅行 | | | |
|-----------------|----|----|----|
| 12時 | 11 | 31 | 51 |
| 13時 | 11 | 31 | 51 |
| 14時 | 11 | 31 | 51 |
| 15時 | 11 | 31 | 51 |
| 16時 | 11 | 31 | 51 |
| 17時 | 11 | 31 | 51 |
| 18時 | 11 | 31 | 51 |
| 19時 | 12 | 32 | 56 |
| 20時 | 28 | | |

札幌国際大学前から清田・平岡・北広島方面の時刻表は中央バス時刻表でご確認ください。(PDFが開きます)

北海道地域観光学会 第5回全国大会 実行委員会（あいうえお順）

| | | |
|--------|--------|------------|
| 大会名誉会長 | 大内 東 | 北海道大学名誉教授 |
| 大会委員長 | 大柳 幸彦 | 札幌国際大学 |
| 実行委員 | 青木 哲朗 | 札幌国際大学 |
| 実行委員 | 伊藤 昭男 | 北海商科大学 |
| 実行委員 | 大塚 吉則 | 札幌国際大学 |
| 実行委員 | 加地 太一 | 小樽商科大学 |
| 実行委員 | 菊地 達夫 | 北翔大学 |
| 実行委員 | 岸 邦宏 | 北海道大学 |
| 実行委員 | 佐々木 清美 | 札幌国際大学 |
| 実行委員 | 長尾 光悦 | 北海道情報大学 |
| 実行委員 | 深澤 史樹 | 酪農学園大学 |
| 実行委員 | 藤崎 達也 | 札幌国際大学 |
| 実行委員 | 細野 昌和 | 北海商科大学 |
| 実行委員 | 榊井 文人 | 北見工業大学 |
| 実行委員 | 三田村 保 | 北海道科学大学 |
| 実行委員 | 柳森 利宣 | （株）メジャーセブン |
| 顧問 | 上野 八郎 | 札幌国際大学理事長 |



札幌国際大学

札幌国際大学短期大学部

- 観光学部 ● 観光ビジネス学科 ● 国際観光学科
- 人文学部 ● 現代文化学科 ● 心理学科 ○子ども心理専攻○臨床心理専攻
- スポーツ人間学部 ● スポーツビジネス学科 ● スポーツ指導学科
- 短期大学部 ● 総合生活キャリア学科 ● 幼児教育保育学科



北海道
地域観光
学会

北海道地域観光学会

〒004-8602

札幌市清田区清田4条1丁目4番1号 札幌国際大学内

Do-chiiki-kanko@ad.siu.ac.jp (事務局/佐々木)

TEL: (011) 881-8844 (代)

FAX: (011) 885-3370

◆学会ウェブサイト◆

<http://www.do-chiikikanko.online/>